

22 期生

着実に歩んだ22期生

22期生学年主任 生田 順子

学級	第1学年 担任
1	鈴木 宏明
2	織田 二郎
3	浅井 和子
4	森内美佳子
5	井上 昭夫
6	寺田 正尚
7	森田 彰

学級	第2学年 担任
1	森内美佳子
2	浅井 和子
3	阿部 幸治
4	鈴木 宏明
5	織田 二郎
6	井上 昭夫

学級	第3学年 担任
1	横山 博史
2	阿部 幸治
3	井上 昭夫
4	森内美佳子
5	浅井 和子
6	岡本 光廣

高校では3年毎のリングが重なり合って紡がれていき、そして校風が出来上がっていきます。柏原東の30年で22期生は平凡で地味だったけれど、着実に前向きな3年間を過ごし、次へバトンを渡しました。

私たちは22期生の入学にあたりこの時期にしか出来ない経験を共に積み、退学を一人でも少なく3年後の卒業式を迎えたいと考えていました。入学当初、落ち着いた学年との評価をもらいましたが少しひ弱いかなとも思っていました。行事を経験する中で友人が出来遅しくなることを期待しました。当時は学年行事をやる余裕もあり、HR運営委員会の手で、皆の意見をまとめ計画を立て実行するという形で取り組みました。今思うと随分いろいろやったなあと思います。この事は生徒と生徒だけでなく、生徒と教師の絆も強くしました。

さまざまな経験で実行力がつき、最終的には体育祭が成功したことは大きな喜びでした。22期生は一人の力持ちではなくて、みんなで荷物を担う学年だったと思いますし、クラブ活動においても停滞していたクラブの復活に貢献しました。

一人一人が自分のやれることを探してそこで頑張る気風が養われました。ただこの時代は高校生の求人が充分でなく希望する職種への就職が難しく大変な時もありました。社会情勢とはいえ残念でした。今進学した生徒達も社会人になる時期を迎えて皆がたくましく生きていってくれることを期待します。私は22期生が卒業した2年後に定年退職しました。私にとってあの時毎日遅くまで学校のあちこちで頑張っていた生徒たちは忘れることの出来ない存在です。教員生活の終わりに共に過ごした充実した3年間でした。





23

期生

風に吹かれて

23期生学年主任 外村 隆志

学級	第1学年	担任
1	上塚 真琴	
2	池内左知子	
3	福田 芳久	
4	高岡さや子	
5	布澤 芳人	
6	木村 康夫	
7	白浜 治作	

学級	第2学年	担任
1	白浜 治作	
2	福田 芳久	
3	池内左知子	
4	木村 康夫	
5	吉村 典子	
6	布澤 芳人	

学級	第3学年	担任
1	福田 芳久	
2	織田 二郎	
3	布澤 芳人	
4	白浜 治作	
5	木村 康夫	
6	池内左知子	

今、23期生の卒業文集を読み返しながら思い出に耽っています。振り返ればこんなスペースにはとても書ききれない幾多のドラマがあった3年間でした。ひとりひとりの書いた“3年間の思い出”に目を通すと、そのシーンのひとつひとつや、そこに登場するひとりひとりの懐かしい顔が次々と目に浮かびます。そのつながりの濃さこそが柏原東なんだなあと思います。この学年は1年の最初に100人超の記録的な入部があり、その生徒達が3年間いろんな場面で学年の柱になってくれました。生徒会の新歓キャンプにも夏休みの学年キャンプにも勉強合宿にも、何にでもたくさん参加者が集まった学年でもありました。そんなさまざまな取り組みの中で仲間づくりが進み、彼等は大きく成長していったと思います。途中、遅刻が多かったり、事件が頻発したり、授業がうるさい時期もあったりと、苦言をもらったこともありましたが、卒業に向かってみんな成長していったその証が、あの修学旅行、3年の体育祭、そして卒業式でした。どれも23期生の成長した力が集まってできあがった素晴らしい作品だと思います。3年間で培った仲間の輪の広がり、成長した自信、生徒と教師の心のつながりがあって、あの感動の卒業式がありました。私達担任団も彼等といっしょに卒業できたような気がします。柏原東ってすごい学校です。





24

期生

24期生の思い出

24期生学年主任 鎮目 直樹

学級	第1学年	担任
1	青木	一規
2	光川	銀三
3	松本	隆子
4	中谷	吉富
5	松本	亮
6	高橋	俊平
7	加藤	郁夫

学級	第2学年	担任
1	青木	一規
2	中谷	吉富
3	松本	亮
4	光川	銀三
5	鳥井	弘枝
6	加藤	郁夫

学級	第3学年	担任
1	加藤	郁夫
2	中谷	吉富
3	鳥井	弘枝
4	松本	亮
5	高橋	俊平
6	光川	銀三

創立30周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。平成6年に赴任し担任や生指係等を経た平成12年、学年主任として24期生の諸君と深く係わることになりました。学年団の最初の会議は2月28日、卒業式の日午後だったのを覚えています。飛行機を使った北海道への修学旅行を提案しました。24期生の3年間の前半は、正にこの修学旅行の成功に向けて在りました。1年の遠足では京都での班別行動を、2年の遠足ではクラス別ではありながら関空集合で実施。また直前の文化祭では、北海道をテーマに各クラスが取り組みました。各教科の先生にお願いして、教材に北海道を取り上げてもらったりもしました。結果は大成功。画期的な修学旅行でした。

後半は卒業に対する取り組みを進めました。卒業していく君達の顔、その希望に満ちた晴れやかな姿を全員に見て欲しい、ということで初めて対面式の卒業式を提案しました。感動的な卒業式で、私自身体育館を出ていく一人一人と握手をかわすことができ、ほんとにいい思い出となりました。

「生徒一人一人が主役」という考えに貫かれた24期生の3年間。私には忘れることができません。





25

期生

25期生の思い出

25期生学年主任 横山 博史

学級	第1学年 担任
1	上田 康宏
2	上田 育利
3	富澤 妙子
4	村上 佳司
5	當内 義憲
6	柏谷 弘子
7	野元ひとみ

学級	第2学年 担任
1	村上 佳司
2	富澤 妙子
3	柏谷 弘子
4	當内 義憲
5	上田 育利
6	野元ひとみ

学級	第3学年 担任
1	横山 博史
2	野元ひとみ
3	富澤 妙子
4	上田 康宏
5	當内 義憲
6	鎮目直樹・柏谷弘子

4月9日の入学式の日、風が非常に強く、体育館の屋根がガタガタしていたことを今でも覚えています。この先を暗示する風のように感じました。学校が始まるとすぐに不登校になった生徒が続出。ケンカや喫煙で停学になる生徒が続出。

そんな中で、今、振り返ってみると、「やる時にはやる」25期生の感動的な場面ばかりが浮かんできます。1年生での、青少年野外活動センターでの飯盒炊さん。全員が協力しながら楽しむことが出来ました。

2年生では、修学旅行の取り組みが一番印象に残っています。欠席や遅刻の回数で風呂に入る順番やトレーナーの色を決めたりしました。雪上運動会やクラスごとにレクをしたりしました。いまでも、みんなの笑顔が思い浮かびます。

3年生では何と言っても、体育祭だと思います。最初は、なかなか盛り上がりがないか、連合リーダーの呼びかけで一度に変わったみんなの態度。

最後の対面式の卒業式も感動しました。今でも卒業の歌のCDを聞いています。第2次の卒業式のことを思い出すと胸がジーンとなってきます。





26

期生

26期生の思い出

26期生学年主任 浅井 和子

学級	第1学年	担任
1	森内美佳子	
2	大瀧 真澄	
3	橋田 正人	
4	矢作 哲朗	
5	村田 知子	
6	鈴木 宏明	
7	富山 治正	

学級	第2学年	担任
1	橋田 正人	
2	富山 治正	
3	矢作 哲朗	
4	森内美佳子	
5	鈴木 宏明	
6	村田 知子	

学級	第3学年	担任
1	鈴木 宏明	
2	矢作 哲朗	
3	村田 知子	
4	森内美佳子	
5	大瀧 真澄	
6	富山 治正	

まず思い出すのは、1年次の「ゲルニカ」制作である。文化祭学年企画として、ピカソの傑作に貼絵でチャレンジしたものだった。原寸大の巨大な下絵をベニヤ板13枚に分けて描き、そこに小さな紙片を1枚1枚貼り付ける一気根のいる作業に悪戦苦闘の連続だった。が、生徒達は抽象的な牛馬や人の形を結構気に入って、気がつけば240名ほぼ全員が制作に参加していた。文化祭前日、別々に制作していたベニヤ板を初めて合体してステージに上げた。当日朝、開催式の幕が上がった瞬間、予想外の出来栄に、生徒達から思わず歓声が上がった。忘れ得ぬ思い出である。

様々な活動において、「学校大好き」と言う元気あふれる生徒達が、学年全体を底上げしてくれた。勉強合宿やサマーキャンプには、毎年大勢が参加した。国語の勉強会も参加者がとぎれることはなかった。出席状況も良好で、生徒のエネルギーには目を見張るものがあった。進路に向けての面接練習や勉強会でも、前向きに取り組む生徒が多かった。生徒達の美点に助けられた3年間だったと言える。

卒業式に生徒から沢山の手紙をもらった。やんちゃな子たちが書いた「ありがとう」の言葉と涙が、もう一つの忘れ得ぬ思い出である。

